

日本 DMORT ニュース第 12 号 (2023 年 4 月)

【目次】

1. 徳島県警察との協定締結
2. 第 25 回 DMORT 養成研修会 IN 愛知 報告
3. 令和 4 年度兵庫県警察総合防災警備訓練(遺族対応訓練)報告
4. 令和 4 年度近畿管区広域援助隊合同訓練(滋賀)報告
5. 京都支部の発足について
6. 事務局からのお知らせ

#####

1. 徳島県警察との協定締結

1) 徳島県警察との協定締結について

(理事長: 吉永和正)

令和 5 年 3 月 6 日(月)10:30 より徳島県警察本部大会議室において「事件等発生時における被害者等の支援に関する協定」の締結式が行なわれました。徳島県警察 松林高樹 本部長と日本 DMORT 吉永和正 理事長の間で署名が交わされ、協定が発効しました。

正会員として徳島大学法医学 主田英之 准教授に参加していただき、これまで日本 DMORT を支援していただいた徳島大学法医学 西村明儒 教授にも陪席いただきました。徳島県警からは生活安全部長、刑事部長、交通部長、警備部長、警務部理事官が出席されました。協定締結はこれで 7 県目となります。



協定の特徴として 3 点を上げることができます。

第 3 条に「・・・支援に携わる者に対する助言及び心理的影響への支援を行なう・・・」とあり、支援者支援が明記されている点をあげることができます。第 4 条では「・・・本協定の効果的な運用を図るため、合同による教養訓練等の実施に努める・・・」となっており、日常からの訓練等での連携

が記載されています。第 6 条では「・・・派遣された際に支弁した旅費は、・・・実費弁償支給条例に基づき、・・・支給する・・・」となっております。旅費の支給も明記されています。



徳島県警の担当者がこれまでの協定のいいところ取りをしたと言っていました。まさにそのとおりの協定になっています。協定を重ねることで理解も拡がり、日本 DMORT にとってよい形の協定になってきたと感じています。

徳島県との関係は兵庫県に次いで古いものです。

平成 23 年 11 月 13 日に「徳島県災害時遺体対応・遺族支援研究会 発足記念講演会」(徳島大学医学部 青藍会館)で吉永理事長が DMORT について講演したのが始まりです。平成 30 年 2 月 25 日には「徳島県災害時対応研究会 第 7 回研修会」(徳島大学 長井記念ホール)で『災害時遺族支援の「これまで」と「これから」ー日本 DMORT と熊本地震ー』というテーマについて吉永理事長、河野理事、村上副理事長が講演を行ないました。このような繋がりがあある中で、具体的な話が急速に進んだのは主田正会員のおかげです(詳細は次項参照)。

今後は徳島県との繋がりも増えてくると思いますが、会員の皆様のご協力をお願いいたします。

2) 協定締結に至る経緯について

(徳島大学: 主田英之)

この度、令和 5 年 3 月 6 日に徳島県警察本部にて協定を締結するに至りました経緯を簡単に紹介させていただきます。

徳島県では、もともと南海トラフ地震に対する危機管理意識が高いところで、徳島大学には、環境防災研究センターが設置されています。平成 23 年の東北大震災もあり、さらに危機意志が高まったこともあり、平成 23 年 11 月には徳島県災害時遺体対応・遺族支援研究会(平成 27 年より徳島災害時対応研究会に改称)が発足しました。この際、吉永理事長に、発足記念講演をして頂きました。また、法人化したのを機に、平成 30 年 2 月には同研究会第 7 回研修会にて吉永理事長、村上副理事長、河野理事に活動報告をして頂くなど徳島にて日本 DMORT を紹介して頂いてました。

その後、正確に時期は記憶しておりませんが、日本 DMORT と兵庫県警と協定を結んだ後に、徳島県警の検視官に、協定について情報提供したことがありました。しかし、残念ながら、このときは協定には至りませんでした。

時は経て、昨年 12 月に徳島県警捜査一課と法医学教室の懇親会がありました。これには松林本部長も参加して頂いておりました。この懇親会の際に、潮統括検視官始め何名かに日本 DMORT との協定について提案しました。この統括検視官が、翌日以降すぐに日本 DMORT のホームページを確認するとともに、担当部署に声をかけて下さいました。すると、担当部署である情報発信課の板東課長がすぐに大学まで来訪されまして、日本 DMORT の活動について説明し、協定について話をすると、「是非に」との言葉を頂くとともに、関係部署との調整やすでに協定を締結している府県警から協定書を取り寄せるなど準備を進めて頂きました。本年 1 月には、協定案を提示して頂き、理事会での承認して頂くことになりました。そして、年度末でもあり、人事異動前のタイミングでとのことで、3 月 6 日の協定締結へ至ったというわけです。提案から 3 ヶ月弱というあまり例を見ないスピードで進みました。

今後、四国、また中国地方へと広がればと思います。

2. 第 25 回 DMORT 養成研修会 IN 愛知 報告

(愛知県支部一同)

令和 5 年 11 月 13 日(日)、名古屋掖済会病院講堂において、第 25 回 DMORT 養成研修会が開催されました。コロナ禍の為、3 年ぶりの開催です。



参加者は、愛知県内外から、医師、看護師、ソーシャルワーカー、心理士、救命士、消防士等 34 名で、うち半数は令和 2 年 3 月に開催を計画するもコロナ禍で中止となった研修の受講予定者でした。第 7 波が収束しつつあり、第 8 波の懸念がある中、マスク着用や手指消毒、ソーシャルディスタンスを保てるよう会場を広く使い、感染対策に配慮しながら研修を開催しました。前日にはオンラインで前日ミーティングも行い、タスクの役割を明確にしました。



毎回の研修で欠かせないのが、ロールプレイングです。受講者が遺族役とDMORT役に分かれて、迫真の演技で家族対応について意見を交わしました。3年ぶりの研修で不安な点もありましたが、全てのプログラムを感染者を出すことなく、無事に終了することができました。スタッフ、タスクをはじめご協力いただいた皆様に感謝いたします。

<編集注: 次回の第26回DMORT養成研修会は7月22日(土)、同じく名古屋掖済会病院にて開催予定です。>

3. 令和4年度兵庫県警察総合防災警備訓練(遺族対応訓練)報告

(副理事長: 村上典子)

令和3年度はコロナ禍で中止となっていた、兵庫県警の訓練が令和5年1月24日(火)に兵庫県広域防災センター(三木市)で開催されました。



吉永理事長は来賓として訓練全体の視察、長崎理事は兵庫県監察医として検視・検案・身元確認訓練に参加、DMORTとしての遺族対応訓練参加は鈴田歯科医師、宮田看護師、村上の3名で、遺族役は兵庫県警被害者支援室メンバーに演技いただきました。打ち合わせの時とうって変わって、本番では迫力満点の名演技で、リアリティのある訓練になったと思います。終了直後から雪が

降り始め、夕方から翌朝にかけて兵庫県は久しぶりの積雪となる大雪となり、タッチの差で無事開催できたことに胸をなでおろしました。

以下、参加してくれた2名の感想です。

(鈴田歯科クリニック: 鈴田明彦)

兵庫県の防災警備訓練に参加、この時期寒さが厳しい中での訓練。前回は見学、今回は医師役でご家族に対しての状況など説明、サポートを実施しました。警察の方の機敏な動作、警察トップの方の視察もあり緊張した中での訓練。倒壊した壁で挟まれ病院に運ばれるも黒タグになった事例で、遺体安置所で娘と対面。娘の死を受け入れることが出来ない父親を落ち着かせることが困難でした。訓練に参加をしているような場面で対応出来るようにしていかなければと改めて思いました。

(大阪医科薬科大学病院看護部: 宮田 郁)



令和4年度の兵庫県警察総合防災警備訓練に参加しました。寒さも厳しい中での訓練でした。今回、2度目の参加でしたが、かなり期間も空いていましたので、前回の訓練を思い出しながら実施しました。警察の方々は、本番さながらの演技で、急に災害現場に来たような感じになります。元気になっていた子どもが、その日のうちにご遺体にな

って親の目の前に横たわっているのですから、到底受け入れられるはずのない状況です。怒りをぶつけるしかない親の横に看護師としていたことの難しさを実感していました。訓練だとわかっていても、その緊迫感にのまれていきます。このような訓練を繰り返し経験することが、本番での活動に繋がるのだと感じています。今後も、機会があれば積極的に参加していきたいと思えます。



(検視・検案訓練の様子)

4. 令和4年度近畿管区広域援助隊合同訓練(滋賀)報告

(理事:河野智子)

令和4年10月16日に、令和4年度滋賀県総合防災訓練に参加させていただきましたが、今回は近畿管区広域援助隊合同訓練が滋賀県で開催され、引き続きDMORTも滋賀県警察本部刑事部捜査一課の方々と協働させていただけることとなりました。

日時:令和5年2月9日(木)

場所:滋賀県蒲生郡日野町北脇1-3 滋賀県警察機動隊

目的:大規模災害発生時の迅速・的確な災害警備活動を行うため、広域緊急援助隊及び防災関係機関による合同訓練を実施し、現場対処能力の向上及び部隊相互の連携強化を図る。

DMORTは、安否未確認家族受付班と安否未確認家族対応班との協働で、以下の2想定に対応しました(* 想定住所・氏名は架空)。

想定①「土砂崩れで家屋が埋没・倒壊の被害」* 窒息死

発生日時:令和5年2月9日(木)午前7時頃

発生場所:滋賀県東近江市蒲生1丁目1番10号 日野健一方

被害概要:木造2階建ての一戸建て。日野健一(53歳)と直美(53歳)夫婦の2

人暮らし。健一は風邪のため会社を休みベッドで寝ていた。直美は会社へ出勤しており、自宅には健一が就寝中、裏山が崩れ土砂が家屋に流れ込み家屋が倒壊した。

発見日時:

令和5年2月9日(木)午後1時頃

発見場所:上記日野健一方 建物内

発見状況:県警機動隊A班が建物内で仰臥の姿勢で全身が土砂に埋まった状態の健一を発見。DMATが心肺停止を確認し死亡確認。健一は、病院ではなく遺体安置所へ搬送された。

搬送後、直美と健一の父親 日野正義(75歳)が発見現場に駆け付けた。健一が発見され搬送された状況を見ていた近所の者から、健一が遺体安置所へ搬送されたことを聞き、直美と正義は同所へ赴いた。



想定②「河川の氾濫で走行中の車両が水没の被害」* 溺死

発生日時: 令和 5 年 2 月 9 日(木) 午前 7 時頃

発生場所: 滋賀県東近江市北脇町 110 番地 田んぼ内

被害概要: 沖野健太(21 歳)は車両(普通乗用車)で避難所へ向かっていた。その途中、上記場所付近を流れる東近江川が氾濫した。車両は水流で横転し田んぼの内で水没した。

発見日時: 令和 5 年 2 月 9 日(木) 午後 1 時頃

発見場所: 上記田んぼ内



発見状況: 県警機動隊 B 班が田んぼ内で運転席側が下になった状態で横転した車両を発見。車両は運転席側が水没した状態。運転席でシートベルトを装着したまま右側臥の姿勢の健太を発見。DMAT が心肺停止を確認し死亡確認。健太は病院ではなく遺体安置所へ搬送された。

警察が健太の母親沖野明美(55 歳)に電話、母親が健太の父親浩之(55 歳)に電話し、両親と一緒に遺体安置所へ赴いた。

想定①には、DMORT: 主田医師・新田救急救命士・植田看護師が対応を、想定②には、DMORT: 竹市医師・別所看護師・岩永看護師が対応しました。どちらのチームにも医師が加わり、非常に心強いチームとなりました。チーム編成は、当日決定しました。実際の現場でも、出動できた者同士のチームでの対応になります。より現実的な訓練になったのではないのでしょうか。

10 月の訓練の際には、「遺族受付」という表示になっていたところ、終了後の遺族役からの意見もあり、「安否未確認家族対応室」との表示に変更されていました。ご家族は尋ねやすくなり、改善したと考えられましたが、今度は、「ここは亡くなられた方の安置場所である」ことの理解が難しくなり、受付の時点で、すでにその説明に難渋してしまうことになりました。想定①では、近所の方から警察車両で運ばれた情報を得ていても、想

定②では、警察から電話連絡されていたとしても家族の心情は同じでした。そんな混乱の中で、我々DMORTの存在の説明は、ご家族には入っていかないのは当然でしょう。協定を結んでいる県警との協働であれば我々の介入の承諾はとる必要はないのではないかと考えられました。協定外の県警との協働でも、警察のチームの一員として自然に家族支援チームとして自己紹介した上での介入でもいいのではないかと考えさせられました。後ろに控え、ご家族のニーズによって我々にできることを即できるように用意することが妥当のように考えます。

警察の方々の職務の大変さは、リアルな家族役の訓練を経験し実際の災害現場を経験すればするほど実感するものです。訓練の必要性を再確認しながら、互いの職務を理解し、顔の見える関係を構築していきたいとさらに思いを深めることができました。

<近畿管区広域援助隊合同訓練に参加して>

(聖隷浜松病院:別所輝哉)

今回、DMORT 役として初めて訓練に参加させていただきました。

事前のブリーフィングのあと、同じ体育館内に警察が展開するご遺体の搬入から、遺体受付班、検視・検案班、歯牙検案・資料採取班、遺体処理班、記録総括・安置班、安否未確認・家族受付班、安否未確認家族対応班と対面までの一連の流れを拝見することができました。今まで座学などで見るのみでしたが、安置所を支える警察はじめ他機関他職種が存在とその動きを知ることで、そのなかの DMORT の存在と私たちの立ち位置を確認することができました。



ロールプレイ訓練では、平時私に対応する心停止患者家族の対面時に似た緊張感に加えて、ブリーフィングしていたとは言え、初対面のスタッフで対応することの不安は想像以上に強いものでした。今回、おうみ犯罪被害者支援センターの方々が家族役を演じて下さったが、揺らぎ移り変っていく家族の感情も迫真の演技で、その時の気持ちに応じたそれぞれの対応について個人的にも考えさせられた訓練でした。

寒い中の訓練でしたが、警察の方々の懸命な対応に心温まる思いでした。業務の中で人の死にいつも関わっている方々ばかりではないことを鑑みるに、家族の対

応は不安が尽きないであろうことが想像されます。家族に説明された警察の方も「この対応でよかったのか」などの発言もあり、養成研修へ警察の方々の参加が更に増えるとその不安も幾分和らぐの难道うかと感じました。また、ご家族に DMORT を説明いただく際にも、どのように説明すれば誤解なく短時間でご理解いただけるか、あらかじめこちらで考えておく必要があるように思われました。



全体の反省検討会では、前回秋の訓練からは明らかに準備から進歩があり、更に良い内容になったという意見がありました。あらかじめ他機関とお互いの理解を深めておくことは、活動を展開していくためには必要であることをその反省から感じ

れました。協定だけでなく、今回のように訓練などを重ね、顔の見える関係を構築しておくことが、より良い DMORT の活動にも大切であると感じられた 1 日でした。

5. 京都支部の発足について

(理事／京都支部長：黒川雅代子)

令和 5 年 3 月 3 日、社員総会で京都支部の発足が承認されました。京都支部長をさせていただきます理事の黒川雅代子です。支部は愛知支部に続いて 2 カ所目となります。

令和 3 年 3 月 8 日の京都府警察と協定締結後は、毎年本部の訓練に参加させていただきだけでなく、各警察署独自の訓練に参加させていただいたり、講演等に呼んでいただいたりと、現場の警察官との連携構築を目指して、活動しています。

災害時には、協定締結していることはもちろんのこと、現場の警察官の方たちが DMORT の役割を理解していただいていることが、スムーズな活動には不可欠です。そのためには、日頃からの合同訓練は不可欠です。京都府警察との関係をますます強固なものにしていきたいと考えています。年々、警察との協定が進んでいます。DMORT の活動が全国に広がっていくためには、支部の拡大が不可欠です。今後も支部の設立が広がっていくことを期待しています。

京都支部は、滋賀、京都、奈良県を担当します。どうぞよろしく願いいたします。

6. 事務局からのお知らせ

令和5年3月末現在での会員状況をお知らせします。理事8名、正会員が2名増えて21名、登録会員172名、賛助会員3名(団体)です。新しい正会員は竹市康裕さんと櫻川真由子さんです。

「自分は登録会員なのか、正会員なのか」というお問い合わせがありますが、基本的にはほとんどの方は「登録会員」となります(会費3000円)。正会員は従来世話人や、今までに訓練に参加くださったり、研修会のタスクをして下さったり、積極的に運営に関わって下さる意思のある方などで、理事から推薦させていただいております(会費1万円)。正会員名はホームページで公開しておりますのでご確認ください。

当法人の会計年度は1~12月ですので、まだの方は会費納入をよろしく願います。ご自身が会費納入をしているか不明の方は事務局までお問い合わせください。訓練参加やタスク参加など、会員限定の特典もありますので、是非引き続き会員になっていただけるよう、よろしくお願いいたします。なお2年間会費が未納の方は退会となります。

【理事名簿】

理事長:吉永和正(医療法人協和会副理事長)

副理事長:村上典子(神戸赤十字病院心療内科部長)

理事:

北川喜己(名古屋掖済会病院副院長)・愛知県支部長

久保山一敏(京都橘大学健康科学部教授)

黒川雅代子(龍谷大学短期大学部教授)・京都府支部長

河野智子(京都第一赤十字病院看護部)

長崎 靖(兵庫県監察医務室)

山崎達枝(四天王寺大学看護学部准教授)

監事:

鵜飼卓(兵庫県災害医療センター顧問)

【事務局所在地】

〒662-0934 兵庫県西宮市西宮浜4-15-1 協和マリナホスピタル内

電話:0798-32-1112(代) FAX:0798-32-1222

<http://dmort.jp>

E-mail: information@dmort.jp

<編集後記>

毎回のように「発行が遅れてすみません」と謝っているような気がいたしますが、またまた前回の11月から5カ月あいてしまいました……。本当に申し訳ありません。トップページにありますように、徳島県警との協定が締結され、7つめとなっております(兵庫、愛知、福井、岐阜、京都、奈良、徳島)。前号では京都府警、今号でも兵庫県警や滋賀県警との訓練の報告もありますように、DMORTが本来の役割を果たすためには欠かせない警察との連携は着々と進んでおります。また協定はなくても実災害で既に熊本や静岡、大阪では活動しております。「DMORT 養成研修会」も3年ぶりに開催され、次回も7月22日(土)、同じく名古屋掖済会病院にて開催予定です。さらにかねてからの懸案事項であった「DMORT 研修会アドバンスコース(仮)」(養成研修会受講済みの方対象にスキルアップを目指す目的)も今年秋には開催予定です。

こうした情報はニュース以外にも、会員の皆様にはメールでお伝えしますので、どうか今後とも会員として、当法人を支えていただきたく、よろしくお願いいたします。

(編集担当:村上典子)